

DENSO

株主のみなさまへ

第93期（2015年度）中間報告書 [2015年4月1日～2015年9月30日]



株式会社デンソー
(証券コード 6902)

ごあいさつ



株主のみなさまには、平素より格別のご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

当社は、今年度より2018年中期方針への取り組みを開始しました。自動車業界を取り巻く環境変化が激しい中においても、これまで以上にスピード感を持って、「環境、安心・安全」「市販・新事業」「海外市場」の注力分野に取り組むことで、社会に貢献し、更なる成長を実現できる企業を目指します。

2015年度第2四半期の業績は、海外での生産増加や拡販があったものの、研究開発費や新製品の立ち上げ費用の増加により、売上収益は2兆2,285億円、営業利益は1,480億円と増収減益となりました。一方で、通期の見通しについては、売上収益は4兆5,200億円、営業利益は3,500億円と増収増益を見込んでおります。日本を中心とする新車効果や海外を中心とする拡販活動の成果に加え、モノづくりのグローバル化やシステム視点での技術開発に積極的に取り組むことで、通期での増収増益を目指してまいります。

株主のみなさまへの利益還元は、当第2四半期末の配当金については、当初の予想通り1株当たり60円、通期では120円を予定しております。また2015年6月開催の定時株主総会における決議に基づき、500万株、総額277億円の自己株式の取得を実施いたしました。今後も株主のみなさまへの利益還元のため、一層の努力を重ねてまいります。

引き続き、ご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

2015年11月
取締役社長

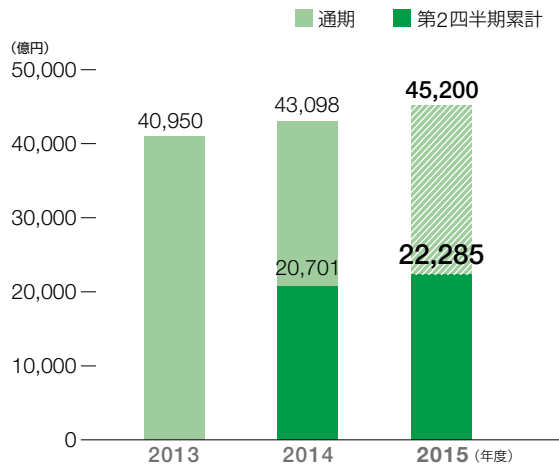
有馬 浩二

■ 連結業績ハイライト

国際会計基準(IFRS)に基づいて作成しています。2013年度は通期のみIFRSへ置き換えて表示しています。
 なお、2015年度通期は見込みを記載しています。

* 親会社の所有者に帰属

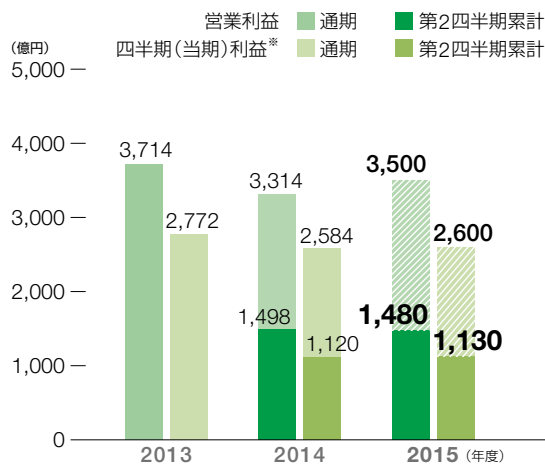
売上収益



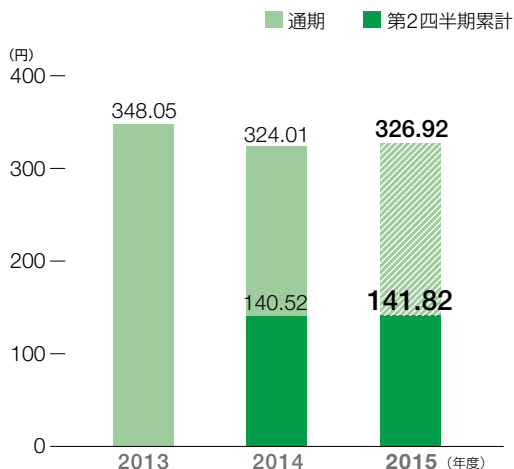
ポイント

売上収益は、海外での生産増加や拡販、円安の影響により、前期比7.6%の増収となりました。
 営業利益は、研究開発費や新製品立ち上げ費用の増加により、前期比1.2%の減益となりました。

営業利益・四半期(当期)利益*



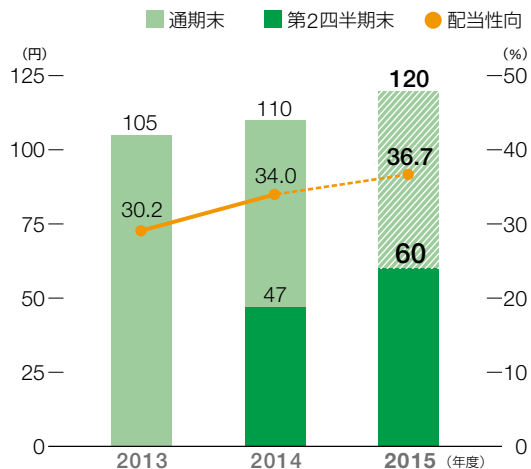
1株当たり四半期(当期)利益*



ポイント

連結業績および配当性向・配当金額等を総合的に勘案しながら、長期安定的に配当水準を継続的に向上させてまいります。また、内部留保については、今後の事業成長を長期的に維持するための投資(設備、研究開発、M&A等)に活用するとともに、資金等状況を考慮の上、自己株式の取得にも充当してまいります。

1株当たり配当金／配当性向



TOPICS 1 トヨタ新型プリウス向けに環境、安全製品を開発

「新型プリウス」向けの製品をトヨタ自動車と共同開発しました。環境分野では、従来品に比べ、約33%の小型化を実現したパワーコントロールユニットや、20%以上の軽量化を実現したモータステータなどを共同で開発しています。安全分野では、ミリ波レーダ、画像センサ、ITS Connect対応車載機などを共同で開発し、衝突回避支援などの安全機能の実現に貢献しています。これらの製品を中心に、車両全体では約85点の当社製品が搭載されています。

<http://www.globaldenso.com/ja/news/2015/20151029-01.html>



パワーコントロールユニット



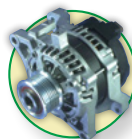
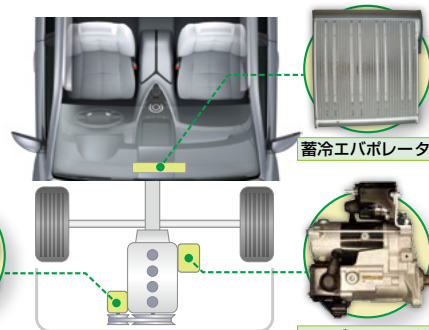
モータステータ

TOPICS 2 トヨタIMV向けに環境、安全製品を開発

トヨタ自動車の新興国向け戦略車「IMV」*向けに、環境性能を向上させたエアコンシステム、アイドルストップシステム構成製品、ディーゼル車用コモンレールシステムや、エアバッグセンサが採用されました。これらの製品は、2015年5月からタイで販売が開始されたIMV「ハイラックス」「フォーチュナー」向けに納入を開始しています。新興国においても、環境・安全に関する規制が高まる中、東南アジアを中心としてグローバルに搭載車種を拡大していきます。

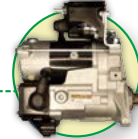
*IMV (Innovative International Multipurpose Vehicle):
世界最適生産・供給体制を構築し、140カ国以上の市場へ導入することを前提に開発したピックアップトラック、ミニバン、スポーツ・ユーティリティ・ビークル

アイドルストップシステム構成製品
搭載イメージ



オルタネータ

*写真は実際の製品と同タイプのもです



タンデムソレノイドスタータ

TOPICS 3 技能五輪国際大会において5職種でメダルを獲得

ブラジルのサンパウロで開催された第43回 技能五輪国際大会において、金メダルを3職種で、銀メダルと銅メダルを各1職種で獲得しました。今回の大会では、日本・タイ・インドネシアに加え、初めてベトナムの拠点からも選手を派遣するなど、デンソーグループからの参加は過去最高の16名となりました。今後も、技能五輪への取り組みを通じて、グローバルな若手技能者育成と技能の伝承を継続していきます。

<http://www.globaldenso.com/ja/news/2015/20150817-01.html>



「CNC旋盤」で4連覇を果たしたデンソー・タイランドの選手

経営 エコマネジメント

環境保全活動を通じて、経済価値を創出する環境経営を推進しています。グローバルな視点で環境経営の強化を図るため、海外地域別に設置した環境委員会を通じ、地域の特性に対応した活動を推進しています。



製品 エコプロダクツ

微細藻類を使ったバイオ燃料の実現に向け、実証設備を建設しました。2016年4月より実証設備を稼働させ、2018年度をめどに実用化に向けた要素技術の確立を目指します。



設備イメージ図

工場 エコファクトリー

工場のCO₂削減のため、1991年から積極的にコージェネ設備を導入してきました。2015年度は、更なる高効率化のため4基を更新し、自家発電率は33%、全15基によるCO₂削減効果は13万トン/年になりました。



社員 エコフレンドリー

安城製作所および大安製作所では、広大な敷地内を社員が移動するための、小型電気自動車を導入し、CO₂を排出しないエコな移動を推進しています。



「エコビジョン2015」をふりかえって

当社は、「エコビジョン2015」に基づき、25項目の長期環境目標と環境行動計画を設定し、グループ全体で取り組んできました。2015年度は活動の最終年度となりますが、生産が増加する中でも、環境調和型製品の開発、生産・物流での効率化等を推進し、全25項目の目標を達成する見込みです。

活動事例

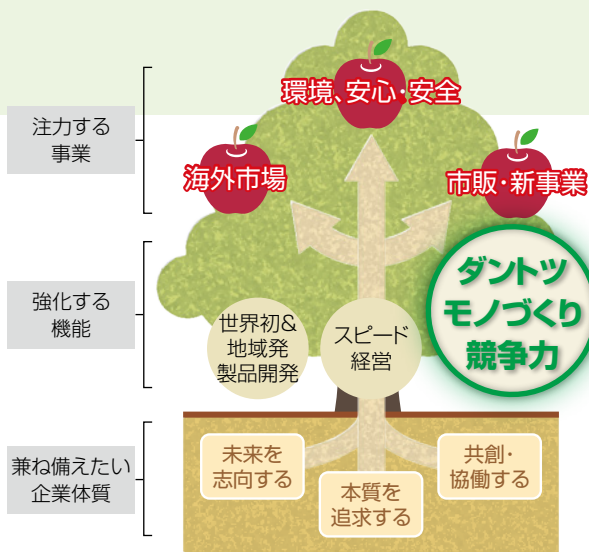
デンソーグループでは、地球温暖化防止への取り組みとして、生産活動から排出されるCO₂排出量原単位*を、2015年度末までに、7%削減(2010年度比)という目標を設定しています。目標達成に向け、生産プロセスの革新、高効率設備の導入、自然エネルギーの活用を中心に、事業所および各社ごとに省エネルギー計画を策定し、取り組みを進めました。その結果、CO₂排出量原単位を19%削減し、目標を大きく上回って達成することができました。

* 原単位=CO₂排出量/売上収益

新たなステージに向けて

「エコビジョン2015」の成果を踏まえ、2025年をターゲットとする新しい活動の目標と行動計画を策定しています。これからも、経営、製品、工場、社員の視点で、すべての企業行動を通じて環境・エネルギー問題の解決と自然との共生に取り組んでいきます。

特集 デンソー一流



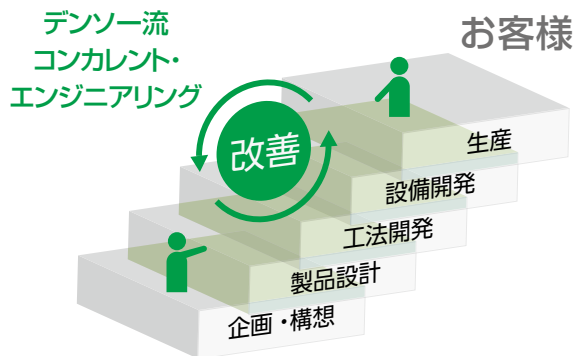
デンソーでは、2018年中期方針において、注力する3事業を实らせるための幹として「**ダントツモノづくり競争力**」の更なる強化

に取り組んでいます。

モノづくりに対する妥協なき姿勢が、当社の競争力や企業価値を高める礎になっています。

■ デンソーの強み

デンソーでは、生産活動だけでなく、製品開発や生産技術開発もモノづくりの一部と考えています。そして、その開発過程では、前工程が作業を完了させて後工程に渡すのではなく、前工程にオーバーラップさせて後工程を開始し、それぞれの担当者が情報共有しながら連携して仕事を進めています。互いの知見を生かしながら改善を繰り返して進めることで、より完成度の高い製品をスピーディに生み出すことが可能になります。この手法は1990年代にアメリカでコンカレント・エンジニアリングと名付けられました。モノづくりの世界では主流になりつつありますが、デンソーでは1970年代からこの手法にこだわりを持って取り組んできました。



お客様や社会のニーズ

数字でわかる！モノづくり 1・2・3・4・5

技術 1/1000ミリにこだわるモノづくり

技能五輪国際大会メダル獲得数 **61** 個 (2015年8月累計)

世界一の技能を競い合う技能五輪への50年以上の出場経験を通じて、世界初・世界一製品を生み出す技能向上に取り組んでいます。

環境 地球にやさしい

CO₂排出量原単位※

製品の製造、市場での使用、廃棄に至る開発・設計・生産活動を行っています。

モノづくりの革新

■ 更なる進化に向けて

事例① ダントツ工場づくりの加速

ダントツ工場づくりは、日本の自動車業界が急激な円高や国内車両販売の減少等厳しい状況におかれた2012年に、徹底的に原価を下げ、国内生産のコスト競争力強化を目指して始まった活動です。数%のカイゼンではなく、N倍、1/N倍^{*1}という規模の効率化のため、あらゆるムダの排除に取り組んできました。これからは国内外のグループ会社へもダントツ工場づくりを展開していきます。^{*1}Nは整数

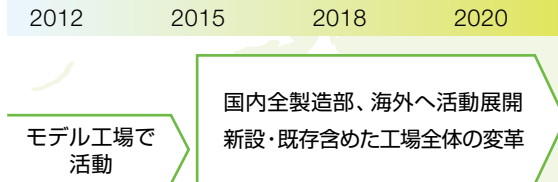
事例② Factory IoTへの挑戦

デンソーでは、生産・品質・情報をネットワークでつなぎ、必要な製品を必要な数だけ生産することで効率化を図ってきました。IoT^{*2}を活用した情報化に注目が集まる中、この取り組みを世界中の工場・生産ライン・設備に拡大し、まるで一つ屋根の下にいるかのように状況判断を行うことができる工場づくりを目指しています。グローバルに社員の知恵・ノウハウ・カイゼン事例をも結集し共有することが、デンソー流のFactory IoTであり、これまで以上に強いモノづくりを生み出すと確信しています。2018年にはグローバルで共有できるシステムの構築を目指し、更なるモノづくりの革新に取り組んでいきます。

^{*2} Internet of Things

世の中に存在するさまざまなモノに通信機能を持たせ、インターネットに接続したり相互に通信することにより、自動認識や制御などを行うこと

■ 取り組みステップ



プラットフォーム化

生産準備
スピード・
完成度向上

異常への
早期アクション

改善事例を
グローバルに
共有

モノづくり



19%削減 (2014年度実績、2010年度比)

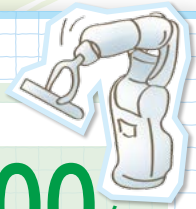
すべての段階において、環境を重視した

^{*}原単位=CO₂排出量/売上収益

生産 効率の良いモノづくり

世界中の工場で稼働するロボット **30,000台**

低コストで安定した品質の生産を実現するために、積極的に自動化を推し進めています。



地域別売上収益(当社グループの所在地別)

欧州

売上収益 2,954億円
 前期比 \uparrow 11.4% 増
 連結子会社 35社

北米

売上収益 5,570億円
 前期比 \uparrow 24.8% 増
 連結子会社 29社

日本

売上収益 12,828億円
 前期比 \downarrow 0.9% 減
 連結子会社 61社

アジア

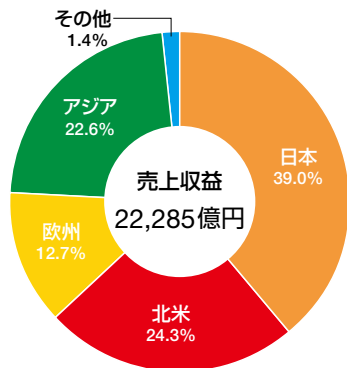
売上収益 5,756億円
 前期比 \uparrow 16.2% 増
 連結子会社 58社

その他*

売上収益 322億円
 前期比 \downarrow 14.7% 減
 連結子会社 6社

※南米等

(注)セグメント間の内部売上収益を含む売上収益



ポイント

日本では、軽自動車を中心とする車両生産の減少により、減収となりました。

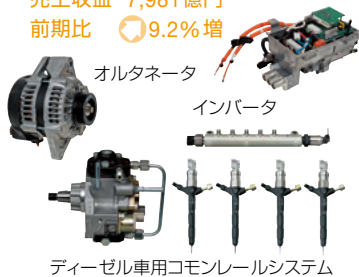
海外では、車両生産の増加や拡販により、増収となりました。

(注)外部顧客に対する売上収益の比率

製品別売上収益

パワトレイン

売上収益 7,981億円
前期比 ▲9.2%増



熱

売上収益 7,072億円
前期比 ▲8.7%増



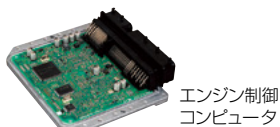
情報安全

売上収益 3,240億円
前期比 ▲10.3%増



電子

売上収益 1,855億円
前期比 ▲0.4%減



モータ

売上収益 1,544億円
前期比 ▲4.1%増

ワイパシステム



産業機器

売上収益 204億円
前期比 ▲3.5%増

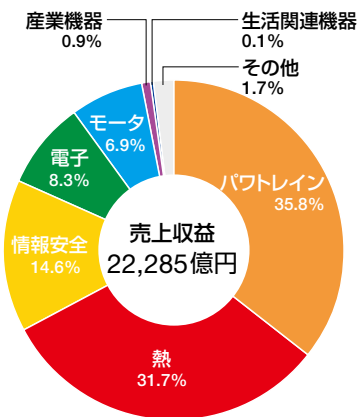
産業用ロボット



生活関連機器

売上収益 29億円
前期比 ▲21.9%減

自然冷媒(CO₂)
ヒートポンプ式給湯器



ポイント

パワトレイン製品は、北米、欧州地域での車両生産増加や、ガソリン直噴製品などの拡販により、増収となりました。

熱製品は、欧州での車両生産増加により、増収となりました。

情報安全製品は、北米でのメータ製品の拡販や、日本での安全製品の拡販により、増収となりました。

主な得意先

トヨタ自動車(株)、本田技研工業(株)、フィアット・クライスラー、GM、フォード、現代・起亜、マツダ(株)、スズキ(株)、ダイハツ工業(株)、フォルクスワーゲン・アウディ、富士重工業(株)、日産自動車(株)、いすゞ自動車(株)、BMW、三菱自動車工業(株)、メルセデス・ベンツ、PSA・プジョーシトロエン、ボルボ、ジャガーランドローバー 他

四半期連結財務諸表 国際会計基準(IFRS)に基づいて作成しています。

連結財政状態計算書 (単位:百万円)

科目	2015年度 第2四半期末	2014年度末	科目	2015年度 第2四半期末	2014年度末
資産			負債及び資本		
流動資産	2,396,796	2,332,209	流動負債	1,222,786	1,028,688
現金及び現金同等物	431,935	792,414	社債及び借入金	290,645	98,959
営業債権及びその他の債権	789,880	807,669	営業債務及びその他の債務	778,390	804,816
棚卸資産	486,325	479,527	その他の金融負債	13,346	11,695
その他の金融資産	631,249	183,580	未払法人所得税	28,144	14,182
その他	57,407	69,019	引当金	63,218	51,737
			その他	49,043	47,299
非流動資産	2,753,226	2,951,048	非流動負債	576,127	780,358
有形固定資産	1,413,039	1,395,706	社債及び借入金	202,198	348,241
無形資産	20,884	19,637	その他の金融負債	9,052	12,204
その他の金融資産	1,088,354	1,302,739	退職給付に係る負債	222,029	219,173
持分法で会計処理されている投資	72,498	71,819	引当金	911	1,066
退職給付に係る資産	92,383	92,676	繰延税金負債	124,550	181,304
繰延税金資産	41,756	44,457	その他	17,387	18,370
その他	24,312	24,014			
資産合計	5,150,022	5,283,257	負債合計	1,798,913	1,809,046
			資本		
			親会社の所有者に帰属する持分	3,224,702	3,327,938
			資本金	187,457	187,457
			資本剰余金	268,453	268,611
			自己株式	△232,548	△218,942
			その他の資本の構成要素	549,308	699,938
			利益剰余金	2,452,032	2,390,874
			非支配持分	126,407	146,273
			資本合計	3,351,109	3,474,211
			負債及び資本合計	5,150,022	5,283,257

連結損益計算書 (単位:百万円)

科目	2015年度 第2四半期累計	2014年度 第2四半期累計
売上収益	2,228,462	2,070,140
売上原価	△1,858,052	△1,715,662
売上総利益	370,410	354,478
販売費及び一般管理費	△203,196	△193,957
その他の収益	6,785	4,715
その他の費用	△25,963	△15,426
営業利益	148,036	149,810
金融収益	19,319	15,444
金融費用	△4,754	△5,536
為替差損益	777	6,305
持分法による投資利益	3,455	2,371
税引前四半期利益	166,833	168,394
法人所得税費用	△46,273	△47,809
四半期利益	120,560	120,585
四半期利益の帰属		
親会社の所有者に帰属	113,050	112,049
非支配持分に帰属	7,510	8,536

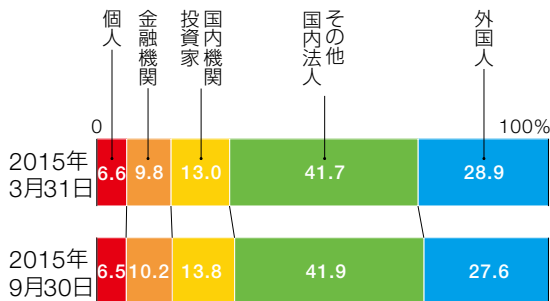
連結キャッシュ・フロー計算書 (単位:百万円)

科目	2015年度 第2四半期累計	2014年度 第2四半期累計
営業活動によるキャッシュ・フロー	269,760	172,818
投資活動によるキャッシュ・フロー	△576,431	△143,451
財務活動によるキャッシュ・フロー	△43,210	△110,944
現金及び現金同等物に係る換算差額	△10,704	5,332
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△360,585	△76,245
現金及び現金同等物の期首残高	792,414	641,694
新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加	106	852
現金及び現金同等物の四半期末残高	431,935	566,301

株式の状況 (2015年9月30日現在)

発行可能株式総数	1,500,000,000 株
発行済株式総数	884,068,713 株
株主数	53,241 名

株式保有者別分布状況 (議決権比率、%)



会社の概要

会社データ

社名	株式会社デンソー
本社所在地	〒448-8661 愛知県刈谷市昭和町1-1 電話 0566-25-5511(案内)
設立年月日	1949年12月16日
資本金	1,874億円
従業員数(連結)	146,714名(就業人員ベース) (2015年3月31日現在)

役員 (2015年9月30日現在)

取締役

取締役会長	加藤 宣明*1	取締役	榎野 孝和
取締役副会長	小林 耕士*1	取締役	安達 美智雄
取締役社長	有馬 浩二*1	取締役	岩田 悟志
取締役副社長	宮木 正彦*1	取締役	伊藤 正彦
取締役副社長	丸山 晴也*1	取締役	George Olcott*2
取締役副社長	山中 康司*1	取締役	名和 高司*2
取締役	田島 明雄		

*1 代表取締役 *2 社外取締役

大株主 (上位10名)

大株主名	持株数(千株)	議決権比率(%)
トヨタ自動車株式会社	197,193	24.80
株式会社豊田自動織機	69,373	8.72
東和不動産株式会社	33,309	4.19
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	32,980	4.14
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	23,488	2.95
日本生命保険相互会社	21,645	2.72
STATE STREET BANK AND TRUST COMPANY 505223	12,756	1.60
アイシン精機株式会社	12,518	1.57
デンソー従業員持株制度会	11,701	1.47
三井住友海上火災保険株式会社	10,604	1.33

注) 当社は自己株式88,730千株を保有していますが、上記大株主からは除いています。

監査役

常勤監査役	岩瀬 正人	監査役	吉田 守孝*3
常勤監査役	新村 淳彦	監査役	齋藤 勉*3
		監査役	近藤 敏通*3

*3 社外監査役

専務役員

田島 明雄*4	岩田 悟志*4	下川 勝久
榎野 孝和*4	伊藤 正彦*4	村上 幸彦
安達 美智雄*4	加藤 俊行	伊奈 博之
若林 宏之	臼井 定広	

*4 取締役兼務

常務役員

桑村 信吾	伊藤 健一郎	松井 靖
加藤 之啓	松木 秀明	武内 裕嗣
都築 昇司	山口 真介	中川 裕人
加藤 良文	梶田 宜孝	下方 敬子
村上 正尚	海老原 次郎	山内 豊
篠原 幸弘	Jack Helmboldt	飯田 寿
木村 和昌	石塚 裕二	Marco Di Rao Marotta
近藤 文一	山崎 康彦	林 新之助
鶴田 真徳	佐藤 久彰	
飯田 康博	隈部 肇	

株式会社 デンソー

〒448-8661 愛知県刈谷市昭和町1丁目1番地
TEL.0566-25-5511(案内)
www.denso.co.jp

株主メモ

事業年度：4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会：6月
配当金支払日：3月31日
株主確定日：なお、中間配当を実施する場合は9月30日です。
単元株式数：100株
証券コード：6902
株主名簿管理人：三菱UFJ信託銀行株式会社
特別口座管理機関：三菱UFJ信託銀行株式会社

株式の諸手続きに関するご案内

株式に関する「マイナンバー制度」のご案内

市区町村から通知されたマイナンバーは、株式の税務関係の手続きで必要となります。このため、株主様から、お取引の証券会社等へマイナンバーをお届しいただく必要がございます。

◎マイナンバーのお届出に関するお問い合わせ先は、下記の通りです。

ご所有株式の口座区分	お問い合わせ先
証券口座	口座を開設されている証券会社
特別口座 (証券会社等で当社株式を ご所有されていない株主様)	三菱UFJ信託銀行株式会社 連絡先：三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 電話 0120-232-711(通話料無料)

単元未満(100株未満)の株式をご所有の株主様へ

当社株式の単元株は100株であり、単元未満株式は市場で売買できませんが、以下お手続きが可能です。

	制度の内容	例：株主様が80株をご所有の場合
買取制度	単元未満株式を当社に市場価額でご売却いただける制度	<pre>graph LR A[株主様 80株] -- 80株 買取請求 --> B[デンソー] B -- 買増代金 支払 --> C[株主様 0株] B -- 80株譲渡 --> C</pre>
買増制度	単元未満株式を1単元(100株)にするために、不足分を当社から市場価額でご購入いただける制度	<pre>graph LR A[株主様 80株] -- 20株 買増請求 --> B[デンソー] B -- 買増代金 支払 --> C[株主様 100株] B -- 20株譲渡 --> C</pre>

株式に関するお問い合わせ先について

◎配当金受取方法の指定(変更)・買取(買増)請求・住所変更等各種お手続きの窓口は、株式をご所有いただいている口座区分により異なります。

ご所有株式の口座区分	お問い合わせ先
証券口座	口座を開設されている証券会社
特別口座 (証券会社等で当社株式を ご所有されていない株主様)	三菱UFJ信託銀行株式会社 連絡先：三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 電話 0120-232-711(通話料無料)

<表紙について>

すべての企業行動を通じて環境・エネルギー問題の解決と自然との共生に取り組む当社の姿をモチーフにしています。



この冊子は環境にやさしい植物油インクを使用しています